

介護技術授業の展開に関する検討

尾 台 安 子

Yasuko ODAI

南 原 友 枝

Tomoe MINAMIHARA

渡 辺 千枝子

Chieko WATANABE

山 下 恵 子

Keiko YAMASHITA

1. はじめに

介護福祉教育において、介護系教科科目は即活用し、実践していかなければならない職業教育的側面をもっている。しかし、介護福祉士が専門職としての役割を果たすためには、単に介護技術の習得に重点がおかれるだけではなく、その過程を大切にしたい思考能力を身につける必要がある。介護系教科科目として、介護概論、介護技術、障害形態別介護技術、実習指導があるが、その内容は重複する部分や欠落する部分があるため整理しなければならないと考えている。また、当学科100名の学生の技術演習には、4～6人の教官が関わるため相互の理解を深め、各教官が教授内容を熟知している必要がある。統一した見解のもとで演習指導にあたらなければならない。そこで今回は担当している介護技術を中心に教授内容を整理検討してみた。出版されているテキスト類を参考に、当学科の実習とのかねあいも考慮して、単元構成を組み立て教授内容を検討してみた。今後さらに他の教科科目との連携調整を図る一助としていきたいと考え、教授内容を報告する。

2. 介護福祉教育における介護技術の位置づけ

介護技術は「スキル」であると同時に「アート」である。他教科で培われてくる社会福祉理念を基にして知識と技術を統合させ、自分自身を表現するものである。介護技術は、表情、声、手等の身体全体を通して、その人が表現されてくるものである。技術を磨くということは、自分自身を磨き、切磋琢磨して人間的に成長することである。人間がより豊かな、より良い生活を営むために、手と頭と心を駆使して創意工夫を重ねてきた技が、介護技術である。その介護技術の展開にあたっては、介護福祉理念の追求や自立支援に向けての心のケア、さらには安楽性や経済性の追求が必要である。また、技術をうらづける科学的な知識や熟練が求められてくる。手と知識と心を使っての介護技術を習得するには、介護技術だけの中で教授できるものではない。学内演習の中では人数的にも限りがある。

その中で介護の基本姿勢と基礎技術が習得できればと考えている。基本をもとに、実習を通して他の教科科目の統合として、心のこもった介護技術が提供できれば良いと考える。介護技術として表現されてくるものの奥の深さを理解し、その意義を共有したい。

3. 介護技術の単元構成組み立ての視点とその内容

介護技術に関するテキスト類をみてみると、それぞれに一長一短があると感じる。あるものは看護系に偏り過ぎたり、あるものは知識、理論部分が弱く、技術偏重になっていたりする。単元構成についても検討を要する部分がある。また、介護福祉実習のかねあいから、各テキスト類の単元構成のまま進められない実情がある。このようなことから、次に挙げる視点を持って単元構成を整理検討してみた。なお、参考テキストとして介護福祉士養成講座13介護技術（中央法規）を使用する。

1) 単元構成の整理検討の視点

- (1) 学生が理解しやすいように系統だてる。
- (2) 実習とのかねあいを考慮する。
- (3) 教授内容の到達度を明確にする

2) 各関連教科との関係及び進度表

介護系教科科目との関連及び進度については表1の通りである。

1年次には1週間の1期実習と3週間の2期実習がある。

2期実習は介護技術の全ての授業が終了した時点での実習となる。

(表1)

3) 介護技術の単元構成

単元構成を検討するにあたっては1期実習とのかねあいを考慮し、技術は食事の介護までが終了して実習に臨むようにした。単元構成は表2に示す通りである。各単元のねらいと内容について説明を加えていきたい。ここでの1コマは90分授業をいう。

(表2)

(1) 介護技術とは

関連する全ての科目が、4月からの同時スタートであるため、介護とは何をするかもわかっていない時期である。そこで、介護とは何かを考えさせ、専門職としての介護に必要な知識・技術を身につけることの重要性を自覚させる。また、学内演習の重要性と注意事項を自覚させるために1コマを費やして学内演習風景VTRを作成し、欠席することのないよう徹底する。

(2) コミュニケーション

この単元での展開の方法はいろいろと試みられて良い部分である。コミュニケーションは対人援助の基本でもあり、介護の基本ともなってくる。このコミュニケーションの単元で何を学ぶのかの到達目標が明確でないと曖昧な授業展開になってしまう。介護技術の中で1単元であることも考慮して、時間数は4コマをあてて、単にコミュニケーションの概論的理解にとどまらず、グループワークやロールプレイングを行ない、コミュニケーションをもつうえで重要なことを理解させていく。また、コミュニケーションの技法を使って体験的に学ぶ。

(3) 観察のポイント

観察の視点は介護を実践する上で常になされていかなければならないことである。しかし、まだ授業が進んでいないこの時期に「観察とアセスメント」として授業を展開しても理解されにくいと考える。ここでは観察の目的及び方法が理解され、学内演習の中で、あるいは1期実習において観察することの重要性が理解できるように観察のポイントとして1コマをあてる。各技術が進み、身体の基本知識が理解された上であらためて、「観察とアセスメント」として観察した内容をどのようにとらえていくかを考えさせていく。

(4) 安全で快適な住まいと生活環境の整備

住居や環境について介護概論や家政学と重複する部分ではあるが、快適な住まいについて考えることができ、生活の場としての環境整備の必要性を認識できることを目的とする。施設を住まいとする場合も簡単にイメージできるようにする。生活環境は他の介護技術の中でも常に意識されなければならないことも伝達したい。関連した演習項目としてはベッドメイキングが入ってくるため3コマをあてる。生活の場であるベッドを快適に整えるための技術を習得する。

(5) 運動・移動

この単元では身体を動かす基本原則について学び、ボディメカニクスを応用した技術を習得する。体位の変換、座位のとりせ方、立位のとりせ方、安楽な体位への援助、車椅子での移動・移乗、杖・歩行器・ベルトを活用した介助方法を学ぶ。さらに高齢者疑似体験装具を装着させ、高齢者の身体の変化を体験させる。この単元では演習項目が多いため、7コマをあてる。

(6) 社会生活の維持拡大

バリアフリーについて考えさせ、福祉用具の大まかな理解と社会資源の活用方法の概略を学ぶ。さらに外出を想定して学外に出て、実際に車椅子の介助、杖歩行の介助技術を習得する。2コマをあてる。

(7) 日常生活における基本的介護

① 食事の介護

食事の意義について理解させ、口腔、咽頭の解剖生理から摂食嚥下のメカニズムを理解させる。老化が食事にどのような影響を与えているかを考えさせ、食事を介助する上で注意しなければならないことを理解する。誤嚥の予防方法を考えさせ、実際の食事介助を通して基本的な食事介助方法を学ぶ。4 コマをあてる。

② 排泄の介護

排泄の意義について理解させ、排泄の解剖生理から排便、排尿のメカニズムを理解し、排泄時の心理について学ぶ。対象者の状況に合わせた排泄の介助方法を学び、実際に紙おむつへの排泄体験を通して排泄の状況や心理を自覚させ、排泄の介助場面において細かい配慮ができるようにする。4 コマをあてる。

③ 衣類の選択と交換及び身だしなみの援助

衣類の役割について理解し、身体状況に合わせた衣類の選択の必要性を考えさせる。身体状況に合わせた着脱の介助や寝たきりの人のシーツ交換技術を習得する。また、身だしなみの必要性を理解させる。演習が入るため4 コマをあてる。

④ 清潔に対する介護

身体の清潔の意義を理解し、皮膚及び粘膜の解剖生理から高齢者の皮膚の特徴を理解させる。身体の清拭方法、洗髪方法、入浴方法、部分浴、口腔ケアの方法を習得するとともに各清潔方法の留意点を理解させる。この単元では、演習項目が多いため8 コマをあてる。

⑤ 睡眠の援助

生活における睡眠の重要性を理解させ、高齢者の睡眠の特徴を学ばせる。その上にたって安眠のための援助方法を学ぶ。講義の1 コマをあてる。

⑥ 褥創の予防

褥創の発生要因及び好発部位を学び、その予防方法が考えられるようにする。早期発見の重要性と褥創の進行状態を理解させる。講義の1 コマをあてる。

(8) 安楽の技術

身体のリラクゼーションとしてのマッサージの方法を学ぶ。マッサージの種類と効果について理解し、その技法について要点を学ばせる。また、安楽にするためのあん法の種類と効果について学び、あん法が適切に貼用できるようにする。演習が入るため2 コマをあてる。

(9) 観察とアセスメント

日常生活における観察点を復習しながらアセスメントとを関連させて考えることができるようにする。異常と正常の判断ができるように各単元で学んだ知識を基に身体的側面、精神的側面、社会的側面から観察できるようにする。健康状態の観察としてバイタルサイ

ンについて学び、正確に測定できるための技術を習得する。4 コマをあてる。

(10) 記録と報告

介護を展開するにあたって、「記録より利用者と接する時間を多くもちたい。」という現場の声を問題提起とした上で記録の重要性と種類について理解させ、記録の書き方と留意点について学ぶ。また、報告の仕方受け方について学ぶ。講義の1 コマをあてる。

(11) 介護計画の立案

介護実践の過程を理解させ、情報収集の方法、及びその情報を整理分析して生活ニーズを導き出すアセスメントの方法について学ぶ。問題の明確化を行い、介護目標を設定し、ケアプランを立案する方法を学ぶ。さらに目標達成のための実践評価の方法を学ぶ。事例を通して一連の過程を理解する。ペーパーシュミレーションを行うため4 コマをあてる。

(12) 医療対応時の介護

病状悪化時の緊急を要する症状を理解させ、観察内容や医療機関への連絡方法、連携の重要性について学ぶ。また薬の知識と正しい与薬方法について学び、高齢者と薬の関係について簡単に学ぶ。感染予防については、必要な知識や消毒・滅菌の方法について学び、正しい手洗い方法を習得する。講義の2 コマであるが、技術的なものはデモンストレーションを行い、理解につなげる。さらに無菌操作の基本技術として創傷処置の無菌操作の方法を学ぶ。なお、救急時の対応については救急法の講習会で行なう。

(13) 終末期の介護

危篤時の基礎的知識を学び、家族の精神的支援の重要性を理解させる。また、死の兆候について理解させ、死に対する心構えや死後の処置の介助方法を学ぶ。2 コマをあてる。

(14) 介護指導の技術

介護福祉士の役割を想起させ、相談指導の重要性を理解させる。在宅療養者の生活を理解させ、指導上の留意点を学ぶ。寝たきりにさせないための援助方法を学ぶ。また、ケアマネジメントの基本を理解させ、概要を学ぶ。講義の1 コマをあてる。

(15) 在宅の介護方法

洗髪パッドを作成しての洗髪方法、手足の部分清拭、熱布清拭の方法を学ぶ。在宅で援助する際の留意点を学ぶ。デモンストレーションを中心に行う演習として1 コマをあてる。

(16) 介護技術の実技テスト

一定水準の技術到達を目的とし、前期と後期の2 回実施する。学内演習はそれぞれ1 回のみであるため、自学自習をすすめるねらいもある。人数が多いため2 ～3 コマを要するが、国家試験の実技試験に対応するものである。

4. 各単元の到達目標と行動目標

各単元の到達目標と行動目標は以下に示す。まだ検討段階でもあるが、介護福祉士にと

って必要な知識は何かということを考え、行動目標は検討をした。

(表3)

5. まとめ

今後はまだ十分な検討が必要な段階ではあるが、一つの形を作って整理してみることで、より教員相互の学びあいができ、効果的な授業展開ができると実感している。各単元で学生に何を学ばせるか整理してみたことは、授業内容の見直しにもなった。今後は行動目標のさらなる検討と授業内容の検討までしていきたいと考えている。また、介護技術と内容が重複する介護概論、障害形態別介護技術等についての連携調整が必要である。さらには実習指導の時間をいかに効果的に、効率的に運用していくかでもある。これらの4教科の関連性を整理して統合していくことは必須であるが、なかなか難しいことである。最近、岡山県介護福祉教育研究会で、この介護系教科科目の3教科を統合したカリキュラムを発表した。重複する部分や欠落する部分を見直し、整理して斬新なカリキュラムの構築をしたものである。当学科も独自のカリキュラムを構築する必要があるが、現在「福祉専門職の教育課程等に関する検討会」がもたれ、厚生省において検討されている。2月末にはカリキュラムの見直しについて報告書が出される予定であり、大いに期待をしたいと思っている。介護の仕事は人間が人間の生活に関わって、生活を自立支援へと導いていくものである。さらに専門職業人として人間として丸ごと関わっていかなければならない。そうした時に一人のトータルとした人間教育を抜きには考えられない。各教科での学習や実習を通しての経験の積み重ねにより、知識の獲得や技能の習得、さらに発展させて、態度や行動の成長につながっていくことが必要である。そのためには介護福祉教育科目全体の連携と統合が図られていかなければならないが、ケアの専門家として知識に裏付けられた技術、人間的に相手の立場を思いやった優しさを伴った技術を身につけた介護福祉士を育てていきたいと思っている。

参考文献

1. 一番ヶ瀬康子他：介護技術、ミネルヴァ書房、1995
2. 高崎絹子他：介護技術、メヂカルフレンド社、1997
3. 福祉士養成講座編集委員会編集：介護福祉士養成講座13・介護技術、中央法規、1997
4. 岡山県介護福祉教育研究会編：介護福祉実習ノートⅢ 教師用指導案集、中央法規
5. ホームヘルパー養成研修テキスト2級課程3巻：長寿社会開発センター、1997

表2 単元構成

単元項目	コマ数	備 考	単元項目	コマ数	備 考	単元項目	コマ数	備 考
1. 介護技術とは	1	講義・VTR	* 衣類の選択、身だしなみの援助、寝衣交換	1	講義・VTR	13. 終末期の介護	1	講義・VTR
2. コミュニケーション	4	講義・ロールプレイ	* 清潔に対する介護	2	演習		1	演習
3. 観察のポイント	1	講義・		3	講義・VTR	14. 介護指導の技術	1	講義
4. 安全で快適な住まいと生活環境の整備	1	講義・VTR		5	演習	15. 在宅介護方法	1	演習
	2	演習						
5. 運動・移動	3	ベットのメーキング				その他		
	4	講義・VTR				* 技術テスト	4	前期2 後期2
		演習						
		「体位変換 安楽な体位 座位 立位 移動 歩行介助 高齢者擬似体験	* 睡眠・身だしなみの介護	1	講義			
			* 褥瘡予防	1	講義			
			8. 安楽の技術	1	講義	* 救急法		夏期休暇中 (5h)
				1	演習			
6. 社会生活の維持拡大	1	講義	9. 観察とアセスメント	3	「電法 マッピング			
	1	演習	* 生活状態		講義			
7. 日常生活における基本的介護			* 知的・心理的状态					
* 食事	2	講義・VTR	* 健康状態					
	2	演習	* 社会関係					
* 排泄	2	講義・VTR	* バイタルサインについて	1	演習			
	2	演習	10. 記録と報告	1	講義			
			11. 介護計画の立案	4	講義			
			12. 医療対応時の介護	2	講義			

(合計コマ数 60コマ)

表3 介護技術単元・到達目標および行動目標

単元項目	コマ数	到達目標	行動目標
1. 介護技術とは	講1	・介護技術を学ぶ目的を理解できる。	① 介護とは何かを考えることができる。 ② 専門職としての介護の違いを考えることができる。 ③ 介護技術の意義を考えることができる。 ④ 介護技術の内容を考えることができる。 ⑤ 学内演習の重要性と注意事項を自覚できる。
2. コミュニケーション	講4	1) 対人援助にのためのコミュニケーションの重要性を理解できる。 2) 高齢者の心理や生活背景をふまえたコミュニケーションが理解できる。 3) コミュニケーションの技術を使って会話を持つことができる。	① コミュニケーションの持つ危険性を知ることができる。 ② コミュニケーションの手段を述べることができる。 ③ よいコミュニケーションの成立について考えることができる。 ① ロールプレイングを通して初対面の高齢者とコミュニケーションをとることができる。 ② 相互理解を促すようなコミュニケーションをとることができる。 ③ 高齢者の心理や生活背景を考えることができる。 ① コミュニケーションの技術の方法を知ることができる。 ② 傾聴・受容・共感・タッチングの重要性を知ることができる。 ③ 促し・繰り返し・質問などのコミュニケーション技術を使ってコミュニケーションをとることができる。
3. 観察のポイント	講1	1) 介護における観察の目的が理解できる。 2) 観察の方法が理解できる。	① 観察とは何かを考えることができる。 ② 観察の目的を考えることができる。 ① 観察の方法を述べ簡単に説明できる。 ② 観察の手段を挙げるすることができる。 ③ 観察事項を簡単に挙げるすることができる。 ④ 観察の留意点を考えることができる。
4. 安全で快適な住まいと環境 (ベッドメイキング)	講1 演2	1) 安全で快適な住まいについて具体的に考えイメージすることができる。 2) 生活環境と環境整備の必要性を理解できる。	① 住まいの役割について説明できる。 ② 住まいの基本的条件を説明できる。 ③ 安全な空間について述べるができる。 ④ 転倒・その他の事故の原因を述べるができる。 ① 居室の適切な温度・湿度とそれを保つ方法を述べることができる。 ② 換気の必要性について説明できる。 ③ 騒音の原因となるものを挙げるができる。 ④ 適切な採光・照明の必要性を説明できる。

		<p>3) 施設における生活環境の特殊性を理解できる。</p> <p>4) 浴室・トイレ・台所・食堂の役割を理解しその環境整備の重要性が理解できる。</p> <p>5) 寝床の環境について理解できる。</p> <p>6) 寝具の衛生管理について考えることができる。</p> <p>7) ベッドが要介護者の生活の場であることを理解して安全で快適なベッドを作ることができる。</p> <p>8) 寝たきりの人のシーツ交換ができる。</p>	<p>① 施設での生活を考えることができる。</p> <p>② 個人の社会環境を整える必要性を説明できる。</p> <p>① 浴室で起きやすい事故と事故防止について述べることができる。</p> <p>② トイレでの排泄行動が安全に行える工夫を述べることができる。</p> <p>③ 台所で起きやすい事故と事故防止について述べることができる。</p> <p>④ 食堂の環境を整える留意点を述べることができる。</p> <p>① よい寝床の条件を説明できる。</p> <p>② 「畳に布団」とベッドの各々の長所と短所を説明できる。</p> <p>① 寝具の汚染の原因を述べることができる。</p> <p>② 寝具の衛生管理の具体策を述べることができる。</p> <p>① ボディメカニクスを考えてベッドを作ることができる。</p> <p>② よい寝床の条件を満たしたベッドを作ることができる。</p> <p>③ ベッドその周辺の環境整備ができる。</p> <p>① 寝たきりの人の安全安楽を考えてシーツ交換ができる。</p> <p>② ボディメカニクスを考えてシーツ交換ができる。</p>
<p>5. 運動・移動</p> <p>* 体位変換</p> <p>* 安楽な体位</p> <p>* 座位のとりせ方</p> <p>* 立位のとりせ方</p> <p>* 移乗</p> <p>* 移動</p> <p>* 機能維持と訓練</p>	<p>講 3</p> <p>演 5</p>	<p>1) ボディメカニクスを理解し、介護の実践の場で応用できる。</p> <p>2) 運動・移動における介護の原則を学ぶ。</p> <p>3) 安楽な体位への介助ができる。</p> <p>4) 基本的な体位変換の介助ができる。</p> <p>5) 基本的な移乗の介助ができる。</p>	<p>① ボディメカニクスの基本原則を述べることができる。</p> <p>② 介護の場面でボディメカニクスを活用できる。</p> <p>① 運動・移動における介護の原則を説明することができる。</p> <p>② 高齢者の擬似体験を通して介助方法を具体的にイメージすることができる。</p> <p>① 体位の種類を述べることができる。</p> <p>② 安楽な体位をとることができる。</p> <p>① 体位変換の必要性を説明することができる。</p> <p>③ 介護の原則にそくした体位変換ができる。</p> <p>* ベッド上での水平移動</p> <p>* 仰臥位 ⇔ 側臥位</p> <p>* 仰臥位 ⇔ 腹臥位</p> <p>* 仰臥位 ⇔ 長座位</p> <p>* 長座位 ⇔ 端座位</p> <p>* 仰臥位 ⇔ 端座位</p> <p>* 端座位 ⇔ 立位</p> <p>* 立位バランス</p> <p>* 片麻痺の場合の体位変換</p> <p>① 介護の原則に即した移乗の介助ができる。</p> <p>* 車椅子 ⇔ ベッド</p> <p>* 車椅子 ⇔ ベッドの二者運搬法</p> <p>② 片麻痺のある人の移乗の介護ができる。</p>

		<p>6) 移動の介助ができる。</p> <p>7) 機能維持・訓練の必要性を学ぶ。</p>	<p>① 車椅子の名称を述べるができる。</p> <p>② 車椅子の操作ができる。</p> <p>③ 杖の種類と役割を説明できる。</p> <p>④ 杖の長さの決め方を述べるができる。</p> <p>① 生活リハビリの重要性を説明できる。</p> <p>② 日常生活の中で生活リハビリの援助ができる。</p>
<p>6. 社会生活の維持拡大</p> <p>* 外出の援助 (車椅子・歩行の介助)</p>	<p>講1 演1</p>	<p>1) 主体的で自立した生活を営む方法として、社会生活の維持拡大の意義と方法を学ぶ。</p> <p>2) 外出時の介助ができる。</p>	<p>① 運動・移動のための福祉用具についての理解と活用ができる。</p> <p>② 外出のもたらす効果を説明できる。</p> <p>③ バイヤフリーについて考えることができる。</p> <p>④ 社会資源の活用について考えることができる。</p> <p>① 外出援助の留意点を述べるができる。</p> <p>② 車椅子の外出時の介助ができる。</p> <p>③ 杖歩行の外出時の介助ができる。</p>
<p>7. 日常生活における基本的介護</p> <p>* 食事の介護</p>	<p>講2 演2</p>	<p>1) 食事の意義を理解できる。</p> <p>2) 口腔・咽頭の解剖生理について理解できる。</p> <p>3) 摂食・嚥下のメカニズムが理解できる。</p> <p>4) 老化が食事に与える影響を理解できる。</p> <p>5) 嚥下障害の原因および予防方法について考えることができる。</p> <p>6) 誤嚥(窒息)の予防方法をとることができる。</p> <p>7) 高齢者が脱水を起こしやすい理由を考慮することができる。</p> <p>8) 脱水の症状とその予防が考えられる。</p> <p>9) 食事の介助方法を理解できる。</p>	<p>① 食事の意義について述べるができる。</p> <p>① 口腔・咽頭の各部の名称を述べることができる。</p> <p>① 摂食のポイントになることを述べることができる。</p> <p>② 嚥下反射のメカニズムを述べるができる。</p> <p>① 感覚器官の機能低下と食事の関係を説明できる。</p> <p>② 上肢の運動機能障害と食事の関係を説明できる。</p> <p>③ 咀嚼機能の低下と食事の関係を説明できる。</p> <p>④ 嚥下機能の低下と食事の関係を説明できる。</p> <p>⑤ 消化機能の低下と食事の関係を説明できる。</p> <p>⑥ 腸管蠕動運動機能の低下と食事の関係を説明できる。</p> <p>① 老化に伴う嚥下障害の原因を挙げることができる。</p> <p>② 嚥下障害の予防方法を挙げることができる。</p> <p>① 窒息時の症状を挙げることができる。</p> <p>② 窒息時の応急処置がとれる。</p> <p>① 脱水を起こしやすい理由を述べることができる。</p> <p>① 脱水の症状が観察ができる。</p> <p>② 脱水の予防ができる。</p> <p>① 食事介助の手順を述べるができる。</p> <p>② 食事の自助具の使用方が理解できる。</p> <p>③ 食事の意義を考えた援助ができる。</p>

			④ 嚥下しやすい体位を取ることができる。 ⑤ 障害に応じた配慮と援助ができる。
* 排泄の介護	講 2 演 2	1) 排尿の意義および排便・排尿のメカニズムを理解できる。 2) 各種排泄援助の方法を理解できる。 3) 排泄時の心理に配慮した援助ができる。	① 排泄の意義を考えることができる。 ② 排泄の解剖生理を説明できる。 ③ 排尿のメカニズムを説明できる。 ④ 排便のメカニズムを説明できる。 ⑤ 排尿・排便の異常な状態を説明できる。 ① 排泄用具とその特徴について考えることができる。 ② 寝たきりの人の布おむつ交換ができる。 ③ 寝たきりの人の紙おむつ交換ができる。 ④ 寝たきりの人の便器介助ができる。 ⑤ 寝たきりの人の尿器介助ができる。 ⑥ ポータブルトイレへの介助ができる。 ⑦ 陰部の清潔保持の方法を説明できる。 ① 排泄時の心理について考えることができる。 ② 紙おむつへの排泄体験を通し排泄の心理を自覚できる。 ③ 実際の排泄場面について細かい配慮ができる。
* 衣類の選択と交換および身だしなみ	講 1 演 2	1) 身だしなみを整えることの意義を理解できる。 2) 身だしなみを整える援助ができる。 3) 衣服の役割を考え、その衛生管理の必要性が理解できる。 4) 身体状況を考慮して衣服の選択をする必要性が理解できる。 5) 片麻痺の人の着脱介助ができる。 6) 寝たきりの人の衣環境を考えて寝衣交換ができる。	① 外観が行動範囲に及ぼす影響を説明できる。 ② 身だしなみを整える意義を述べることができる。 ① 身だしなみを整える具体的援助を挙げることができる。 ① 衣類の役割を述べることができる。 ② 衣類の汚染の原因を述べることができる。 ③ 衣類衛生管理の具体策を述べることができる。 ① 好ましい衣類の材質を述べることができる。 ② 身体状況を考慮した衣類を知ることができる。 ① 片麻痺を設定し、自力で衣類の着脱ができる。 ② 片麻痺を設定し、衣類の着脱の介助ができる。 ③ 着脱の原則を述べることができる。 ① 寝たきりの人の安全・安楽を考えて寝衣交換ができる。 ② ボディメカニクスを考えて寝衣交換ができる。
* 清潔に対する介護 ・ 清拭 ・ 洗髪 ・ 入浴 ・ 口腔ケア	講 3 演 5	1) 健康生活における身体の清潔の意義を理解する。 2) 身体の清拭ができる。	① 皮膚および粘膜の解剖生理について説明できる。 ② 高齢者の皮膚の特徴を述べることかできる。 ③ 清潔の重要性を述べることができる。 ① 清拭の目的を述べることができる。 ② 清拭の留意点を述べることができる。 ③ 身体の部分清拭ができる。

		<p>3) 頭髮の清潔の援助ができる。</p> <p>4) 入浴の介助ができる。</p> <p>〈機械浴〉</p> <p>〈巡回浴〉</p> <p>〈シャワー浴〉</p> <p>〈一般浴〉</p> <p>5) 部分浴の方法を学び援助ができる。</p> <p>6) 口腔ケアの意義を理解し、具体的援助が実施できる。</p> <p>7) 身体細部の清潔の援助ができる。</p>	<p>① 頭髮の清潔の目的を述べることができる。</p> <p>② 洗髪の手順を述べることができる。</p> <p>③ 寝たきりの人の洗髪ができる。</p> <p>① 入浴の目的を述べることができる。</p> <p>② 入浴時の留意点を述べることができる。</p> <p>③ 各種入浴方法の特徴と留意点を述べることができる。</p> <p>① ストレッチャーの操作および移乗が安全に安楽にできる。</p> <p>② 安全に配慮した機械の操作ができる。</p> <p>③ 留意点をふまえて洗うことができる。</p> <p>① タオルを用いた移動ができる。</p> <p>② 安全に配慮して浴槽から出すことができる。</p> <p>① 保温に配慮したシャワー浴ができる。</p> <p>① 片麻痺の人の入浴介助ができる。</p> <p>② 補助具の活用ができる。</p> <p>① 部分浴の留意点を述べることができる。</p> <p>② 各体位に応じた手浴ができる。</p> <p>③ 寝たきりの人の足浴ができる。</p> <p>① 口腔ケアの意義を述べることができる。</p> <p>② 義歯の管理、清潔方法を述べることができる。</p> <p>③ 口腔ケアの方法を説明できる。</p> <p>④ 歯ブラシを用いた口腔ケアができる。</p> <p>① 鼻腔・耳・目・爪のケアができる。</p>
* 睡眠の援助	講 1	<p>1) 日常生活における睡眠の重要性を理解できる。</p> <p>2) 高齢者の睡眠が理解できる。</p> <p>3) 不眠の原因を理解できる。</p> <p>4) 不眠時の具体的な介護ができる。</p>	<p>① 睡眠が基本的ニーズの一部であることを説明できる。</p> <p>② 睡眠は、「活動と休息」の一部であることを説明できる。</p> <p>③ 睡眠の周期について説明できる。</p> <p>① 高齢者の睡眠の特徴を説明できる。</p> <p>① 環境に起因する不眠の原因を述べることができる。</p> <p>② 生活習慣の変化、精神的不安、身体的苦痛などによる不眠の原因を述べることができる。</p> <p>① 不眠時の観察事項を述べることができる。</p> <p>② 不眠時、一日の生活を改善する視点について説明できる。</p> <p>③ 不眠時、心身を安定させ安楽を提供する手段を説明できる。</p> <p>④ 不眠に対する薬物の服用後の留意点を述べることができる。</p>
* 褥創予防	講 1	<p>1) 褥創発生のメカニズムと要因が理解できる。</p> <p>2) 褥創が及ぼす影響が理解できる。</p>	<p>① 褥創発生のメカニズムを述べることができる。</p> <p>② 褥創発生の物理的、身体的要因を述べることができる。</p> <p>① 褥創の進み方を述べることができる。</p> <p>② 褥創を持つ人の身体的・精神的影響等を説明できる。</p>

		3) 褥創予防の援助を理解できる。	① 褥創予防の具体的な援助を説明できる。
8. 安楽の技術 * 電法 * マッサージ	講1 演1	1) 安楽な介護の概念が理解できる。 2) 安楽な状態を作り出すための電法が安全に実施できる。 3) 安楽な状態を作り出すためのマッサージが安全に実施できる。	① 安楽な状態とそうでない状態の関係を簡潔に理解できる。 ② 安楽な介護をするための留意点を述べるができる。 ③ 電法とは何かを説明できる。 ④ 電法の原則と留意点を説明できる。 ⑤ 水枕・氷嚢・湯たんぽを安全に貼用できる。 ⑥ マッサージの意味とその効果発現について簡単に説明できる。 ⑦ マッサージが禁忌の場合を述べるができる。 ⑧ マッサージを施行するときの留意点を説明できる。 ⑨ マッサージの基本手技として、軽擦法・柔捏法、叩打法ができる。 ⑩ 肩こりに対する一連のマッサージができる。
9. 観察とアセスメント * 日常生活における観察 * 知的・心理状態の観察 * 健康状態の観察 * 社会関係の観察	講2	1) 介護における観察の目的が理解できる。 2) 観察の方法が理解できる。 3) 健康の概念を知り、アセスメントの持つ個別性と結びつけて考えることができる。 4) アセスメントにおける「観察」の重要性が理解できる。 5) 高齢者の特徴を理解できる。 6) 日常生活のアセスメントをする基本的な能力を養う。 7) 事例を通し、アセスメントの方法を理解できる。	① 観察とは何かを述べるができる。 ② 観察の目的を説明できる。 ③ 観察の方法を述べ、簡単に説明できる。 ④ 観察の手段を挙げることができる。 ⑤ 観察事項を挙げることができる。 ⑥ 観察の留意点を述べるができる。 ⑦ WHOの健康の概念を知る。 ⑧ 個人がその人らしく生活していくことの大切さを知る。 ⑨ アセスメントとは何かを述べるができる。 ⑩ アセスメントの要素を述べるができる。 ⑪ アセスメントの情報収集において観察する機会が多いことが説明できる。 ⑫ 高齢者の身体的特徴を説明できる。 ⑬ 高齢者の心理的・知的特徴を説明できる。 ⑭ 高齢者を理解する留意点を述べることができる。 ⑮ 食事に関する観察方法が説明できる。 ⑯ 排泄に関する観察方法が説明できる。 ⑰ 睡眠に関する観察方法が説明できる。 ⑱ 清潔に関する観察方法が説明できる。 ⑲ 衣類の着脱に関する観察方法が説明できる。 ⑳ 動作・歩行に関する観察方法が説明できる。 ㉑ アセスメントから問題となることを考えることができる。 ㉒ 問題の個別性を考えることができる。
* バイタルサイン	講1 演1	1) 観察とアセスメントの一つとしてのバイタルサインを理解できる。	① バイタルサインとは何かを述べるができる。

		2) バイタルサインの測定ができる。	② 体温の正常・変動因子・測定方法を説明することができる。 ③ 発熱時の介護を述べることができる。 ④ 脈拍とは何かを説明できる。 ⑤ 脈拍の正常・変動因子・測定方法を述べることができる。 ⑥ 呼吸の正常・変動因子・測定方法を説明することができる。 ⑦ 呼吸困難時の介護を述べることができる。 ⑧ 血圧とは何かを説明することができる。 ⑨ 血圧の正常・変動因子・測定方法を説明できる。 ⑩ 意識障害とは何かを説明できる。 ① 体温・呼吸・脈拍・血圧の測定ができる。
10. 記録と報告	講 1	1) よい介護をするために、記録を利用することの重要性が理解できる。 2) 経時的介護記録を書くことができる。 3) 報告の長所・短所を知り、報告することができる。 4) 報告と記録の結びつきが理解できる。	① 記録の目的を説明できる。 ② 介護記録の種類を知る。 ③ 記録の書き方の原則を述べるができる。 ④ 介護における医療の専門用語を知る。 ① VTRを見て、記録の原則を踏まえて介護記録を書くことができる。 ① 報告の種類を知る。 ② 報告の留意点を述べるができる。 ③ 報告の問題点を挙げるができる。 ① 報告は、記録に残すことの重要性を説明できる。
11. 介護計画 * 介護計画の必要性・意義 * 介護過程の展開 * 実施と評価	講 4	1) 介護の実践過程を理解する。 2) 情報収集の方法を理解する。 3) 情報からアセスメントの方法を学ぶ。 4) 介護計画の立案の方法を学ぶ。 5) 評価の方法を学ぶ。	① 介護過程の構成要素を述べるができる。 ② 介護計画の必要性を説明できる。 ① 情報収集の方法を説明できる。 ② 情報収集の内容を説明できる。 ① 情報の整理、分析の方法を考えることができる。 ② 生活障害から生活ニーズを考えることができる。 ③ 問題の明確化と優先順位を決定していく方法を説明できる。 ① 長期目標、短期目標の違いを述べることができる。 ② 介護目標を設定できる。 ③ ケアプランを考えることができる。 ① 目標に対する達成度の評価ができる。 ② 実践活動の再アセスメントができる。
12. 介護指導の技術		1) 介護相談・助言の役割の重要性を理解できる。	① 介護指導の意義を説明できる。 ② 対象者を取り巻く生活状況を考えることができる。 ③ 指導上の留意点を述べるができる。

		<p>2) 寝たきりにならないための援助方法を学ぶ。</p> <p>3) ケアマネジメントの概要を学ぶ。</p>	<p>① 寝たきりの原因を説明できる。</p> <p>② 寝たきりの予防方法を考えることができる。</p> <p>③ 寝たきりの予防のための介護指導を考えることができる。</p> <p>① ケアマネジメントの必要性を考えることができる。</p> <p>② ケアマネジメントの展開の概要を説明できる。</p>
<p>13. 医療対応時の介護</p> <p>* 受診時の介護</p> <p>* 異常発見時の対応</p> <p>* 与薬時の介護</p> <p>* 介護と医療行為</p>		<p>1) 通院介助がスムーズにできるための基本的な知識を学ぶ。</p> <p>2) 異常時の判断をするための基礎的な知識を学ぶ。</p> <p>3) 薬の作用機序が理解できる。</p> <p>4) 与薬時の介護を学ぶ。</p> <p>5) 介護における医療行為との関係を学ぶ。</p>	<p>① 通院の準備と介助、診察時の配慮、診察後の家族や他職種への報告および記録の流れを知ることができる。</p> <p>① 発熱・発疹・嘔吐・下痢・浮腫などの症状に対して必要な観察事項を述べることができる。</p> <p>② 医療対応が必要かどうか判断できる。</p> <p>③ ①の症状に対して他職種への報告ができる。</p> <p>④ ①の症状に対してどのような介護が必要か述べることができる。</p> <p>⑤ 意識障害の症状を簡単に述べることができる。</p> <p>⑥ 意識障害が認められたときは、医療対応が即必要であることを知ることができる。</p> <p>① 薬の作用機序を述べることができる。</p> <p>② 薬の種類とその特徴を述べるができる。</p> <p>① 与薬時の留意点と具体的な援助を述べることができる。</p> <p>② カプセル・坐薬などで起きやすい事故や間違いを知ることができる。</p> <p>① 医療行為とは何かを説明できる。</p> <p>② 救急時の対応ができる。(救急法講習会)</p>
* 感染予防	講 1	<p>1) 感染についての基礎的な知識を理解できる。</p> <p>2) 感染予防の手段を理解できる。</p> <p>3) 無菌操作の基本を学ぶ。</p> <p>4) 寄生虫や感染症の拡大を防ぐ具体的な方法を学ぶ。</p>	<p>① 感染、病原体、発病、消毒、滅菌の用語の意味を述べるができる。</p> <p>② 感染の成立要因を述べることができる。</p> <p>③ 感染予防の意義と、原則を述べることができる。</p> <p>① 効果的なうがいができる。</p> <p>② 除菌のための手洗いができる。</p> <p>③ 薬液消毒の原則を説明できる。</p> <p>④ 薬液消毒を実施できる。</p> <p>⑤ ガウンテクニックが実施できる。</p> <p>① 無菌操作の必要性を考慮することができる。</p> <p>② 無菌的な創傷処置を知る。</p> <p>③ 絆創膏の貼り方、包帯の巻き方を知る。</p> <p>① 疥癬の寄生の拡大を防ぐ方法を説明できる。</p> <p>② MRSA等の感染予防の方法を説明できる。</p>

14. 終末期の介護 * 終末期の援助 * 医療機関との連携 * 容体急変時の対応 * 臨終時の対応 * 死後の対応	講 1 演 1	1) ターミナルケアの概念を学ぶ。 2) ターミナルケアについて学ぶ。 3) 危篤時の基礎的知識を学ぶ。	① ターミナルケアとは何かを考えることができる。 ② 生や死に対して多様な考え方があることを知る。 ③ 身体面・心理面の変化を述べることができる。 ① 身体面・心理面を考慮した介護を考えることができる。 ② 医療機関との連携の重要性を知る。 ③ 家族支援の重要性を知る。 ① 死の徴候を述べることができる。 ② 死後の処置の介助方法を知る。
15. 在宅の介護方法 * 洗髪方法 * 熱布清拭 * 部分清拭	演 1	1) 家にあるものを活用し、在宅での洗髪の方法を学ぶ。 2) 熱布清拭・部分清拭の方法を学ぶ。	① ビニール袋などを用いて洗髪パッドを作ることができる。 ② 洗髪パッドなどを用いての洗髪方法を知る。 ① 熱布清拭の効果を説明できる。 ② 熱布清拭の方法を知る。 ③ ビニール袋を利用して蒸す手足の清拭方法を知る。
付：介護技術テスト	前 2 後 2		

